



平成24年度 米穀の買入れ価格決定

今年は、5月中旬が涼でしたが、それ以外は平年並みからやや高めで推移しました。6月中旬以降は最高気温は低く、最低気温は高い傾向でした。

梅雨明け後は高温で推移し中国地方では作柄は平年並みとなっています。

全国農業協同組合連合会の平成24年度産米の概算金は、主食用うるち米コシヒカリ1等7,000円/30kg、ヒノヒカリ1等6,400円/30kgに決まりました。

JA安芸では、「管内で収穫された米穀は管内で消費」することを基本として安芸農業協同組合独自の高価買入れ価格を下記のとおり決定いたしました。

出荷を希望される方は、お近くの支店、購買部または、営農指導センターへお申し出ください。是非、安芸農協へ全量出荷していただきますようお願い申し上げます。

平成24年度産 米穀買入れ価格		円/30kg		
銘柄	1等	2等	3等	
コシヒカリ	8,700	8,200	7,700	
ヒノヒカリ	8,300	7,900	7,500	
あきるまん	8,100	7,800	7,400	
上記以外の銘柄	7,500	7,200	6,600	
こだわり米	食味値 83 以上	9,200	-	-
ヒノヒカリ	食味値 70~83 未満	8,700	8,500	7,800

上記価格は11月末までの価格です。各等級ともに12月~3月までは100円、4月以降は500円下がります。

米集荷・検査日程決まる

9月28日から米集荷・検査が始まります。今まで出荷したことがない方や毎年古米が余り中々新米が食べられない方も是非とも出荷してください。出荷申込書と栽培履歴を記入していただければ結構です。今後の日程や詳しいことは、最寄りの支店・購買センターまたは営農指導センターへお気軽にお問い合わせください。



水田の 土壌診断 について

JA安芸では品質の良い米作りと適正な施肥管理のため、水田の土壌診断を実施いたします。(分析はJA西日本肥料研究所で行います。)診断した土壌は、個々に土壌診断処方箋を作成して申し込み者へ送付いたします。ぜひこの機会に土壌診断を受けられることをお勧めします。申込は下記の通り行いますのでよろしくお願いたします。

- 記 -

診断項目(水稲) PH・有効態りん酸・遊離酸化鉄・有効けい酸・腐植
土壌提出先 JA安芸 各支店購買窓口及び熊野購買センター
提出期限 平成24年11月12日(月)
検査の費用 無料(住所、氏名をTACシステムに登録させていただきます。)
土壌サンプルの取り方 別紙添付しておりますので正しく取ってください。

注)乾燥して粉碎してふるいをかけた物でないとお引き受けできません。土はビニールに入れて氏名、住所、電話番号、土の区分のわかるものを付けてください。

土壌診断結果 個別にお知らせいたします。

土壌診断を行うメリット

圃場の土壌状態がわかる。

土壌診断結果をもとに施肥を行い、土壌中の肥料バランスを整えることができる。

土壌診断を行い適正・過剰な成分があった場合は、減肥できる為コストの低減ができる。



不用農薬適正処理受付を行っています。

10月20日まで受付です。お問い合わせは営農指導センターまで(082-855-6176)

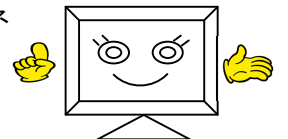
平成24年度農業祭開催予定日のご案内

今年は、台風の被害はありませんが、雨が少なく夏秋まき野菜の作付けにはご苦労されていることと思います。今年も各地区で地域農業振興及び地域住民(消費者)の方に農業理解を深めていただくことを目的に開催されますので、多数出品をお願いいたします。

かいた農業祭 11月25日(日) 阿戸町農業祭 11月18日(日)
熊野町農業祭 12月2日(日) 瀬野川農業祭 11月18日(日)
坂町農産物品評会 12月2日(日)

電子図書の利用

9月に支店購買部へ、ねぎの葉が白くなった物を持参されて相談されました。早速、電子図書のディスプレイパネルで、ねぎの病害虫で検索を行いました。いろいろな病害虫の写真が表示される中から良く似た症状を確認した所「ネギハモグリバエ・ネギアザミウマ」の被害であることがわかりました。電子図書には、被害の葉と加害した虫の写真が出ており生産者も納得され喜んでいただきました。



10月営農メモ

果樹

落葉果樹の植付け

落葉果樹の植え付けの話は早いように感じるかもしれませんが、植え付け前の準備を考えると10月には始めたいと思います。

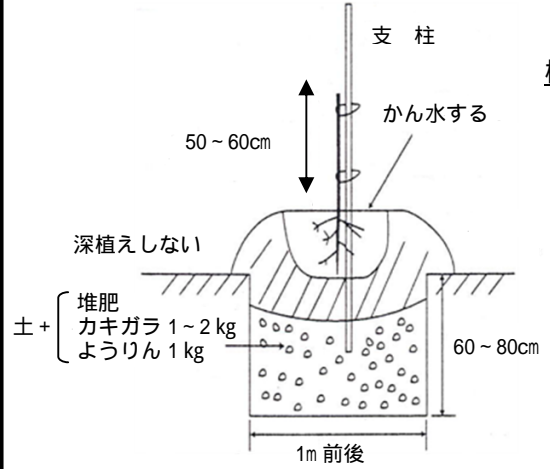
新植

浅植えとして、接木部分が永久に地面に出ているようにする。
 5~6年はもつ、しっかりした支柱をたてる。
 植え付け時に化学肥料をやらない。
 化学肥料はできるだけ薄くして追肥・灌水とする。新梢が20cm以上伸びてもとの葉が緑化したところからやる。
 植え穴を掘って植え付けた場合は地面が沈むので最低1ヵ月前には植え穴を掘って準備しておく。
 ソダ・ワラなどを入れるが、大きな有機物は白モンパ病の原因になりやすい、完熟した堆肥を使う。また、堆肥が多いと地面の沈みが大きくなるので入れ過ぎにならないようにします。
 肥えた表土を底に入れると根が伸びにくくなります。(表土は上部へ底土は下部へもどす。)
 地面が沈み水が溜まると樹が弱ります。植え穴にも水が溜まった状態になると根も樹も弱る。
 上手に植え付けしましょう。

- * 植える手順
 苗木の腐敗根の除去
 苗の根くばり
 土寄せ(根の間に土を入れる)
 支柱立て
 誘引
 先の剪定(50~60cm)

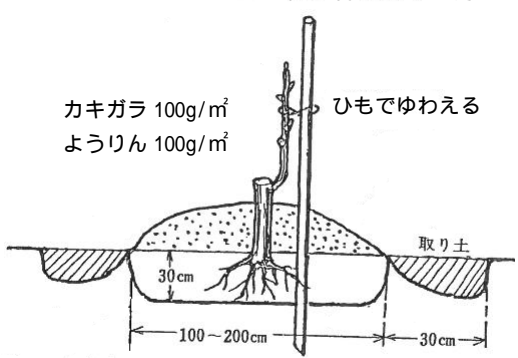
- * 適地 日当たりが良く、排水のよいところ
 * 植付け時期 11月~3月(1~2月は除く)
 * 植付け方法 植付け1ヶ月前までに堆肥
 カキガラ、ようりんを施し
 土づくりしておく。

植え付け穴を掘って植え付けるやり方



植付け図

かんたんな植え付けのやり方



今月上旬は年末収穫の軟弱野菜の播種時期となります。秋の気候により生育の早晚があるため、移植栽培の場合阿戸地区では7日頃と11日頃に分けて播種しましょう。

圃場

8月に定植したキャベツやブロッコリーなどは下旬頃より収穫となりますが、ブロッコリーの収穫は切り口を斜めに切り水が溜まらない様にし、側花蕾の促進のため追肥を行いましょう。カリフラワーでは日焼け防止のため花蕾が5cm位の頃より外葉を2~3枚折り花蕾を包む様にして遮光しましょう。メキャベツでは下葉や軟化球を置いておくとヨトウムシ被害が多くなるため地際より10cmまでの葉や芽は早目に除去しておきましょう。年明け収穫のはくさいやキャベツでは定植後1ヵ月頃に追肥を行いましょう。

病害虫

彼岸が過ぎ気温もずしくなり、はくさい等ではべと病や白斑病が発病しやすい条件になりました。特に肥切れしている場合は発病が助長されますので肥切れさせない様にかかりましょう。害虫では先月に引き続きヨトウムシ類の被害が多い時期となりますので早期防除を行いましょう。軟弱野菜ではハモグリバエの被害がひどい場合には出荷不可能となる事もあります。圃場周辺の雑草が多い場合、特にきく科の雑草が多いと発生源となりやすいため草刈りを行い、圃場への飛び込みを減らすと共に防虫ネットの被覆や、黄色の粘着シートを作物周辺に立てる事で被害の軽減と併せ予察にもなりますので利用してください。葉菜類や根菜類で登録のある農薬は散布~収穫までの期間が長い物が多いため使用時期には注意してください。

- べと病 プロポース果粒水和剤、アミスター20フロアブル、Zボルドーなど
 白斑病 トップジンM水和剤、ロブラール水和剤、ダコニール1000など
 ハモグリバエ類 アファーム乳剤など

果樹の一般的な植栽間隔 単位:メートル

種類	栽培方法	植栽時の間隔	間伐をしてほぼ落ち着いた間隔
ブドウ	短梢せん定H型	4×12	場合によって間伐する
	長梢せん定X型	5×5	10×10
ナシ	棚仕立3本主枝	5×3	5×6
カキ	変則主幹形	5×4	5×3
モモ	2本主枝杯状形	5×3	場合によって間伐する
			5×5
リンゴ	マルバ普通台	5×4	5×8
	低木台栽培	4×2	間伐しない
クリ	変則主幹形	4×4	8×8
ウメ	杯状形	3×4	6×4
スモモ	杯状形	4×4	8×8
イチヂク	杯状形	4×4	場合によって間伐する
キウイフルーツ	棚栽培	5×5	場合によって間伐する
ズズ	変則主幹形	3×3	3×6